



新機能と更新情報

この章は、次の内容で構成されています。

- [新機能と更新情報 \(1 ページ\)](#)

新機能と更新情報

次の表は、現行リリースに至るまでにガイドの編成と特徴に加えられた主な変更点の概要を示しています。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: Cisco APIC リリース 5.2(4) の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
ダイナミック L3Out EPG 分類	ダイナミック L3Out EPG 分類 (DEC) 機能が導入され、ルーティングの変更に伴う pcTag のダイナミックな変更が可能になりました。	外部ネットワークへのルーテッド接続
ルートのフィルタリングと集約	Cisco APIC はファブリックでアダプタイズされるルートを要約またはフィルタリングして、ファブリックのスケール要件を軽減するオプションを提供します。	ルート集約
セカンダリ IP アドレスでの双方向転送検出のサポート	セカンダリ IP アドレスで双方向転送検出 (BFD) を構成できるようになりました。	GUI を使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワーディング検出の構成

表 2: Cisco APIC リリース 5.2(3) の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
SVIL3Out でのレイヤ3 マルチキャストのサポート	SVI L3Out のレイヤ3 マルチキャストがサポートされます。	SVI L3Out のレイヤ3 マルチキャストについて
さまざまな外部 VLAN カプセル化の使用のサポート。さまざまな外部カプセル化インスタンスのすべてが単一のレイヤ2 ドメインの一部として扱われます。	さまざまな外部 VLAN カプセル化の使用のサポート。さまざまな外部カプセル化インスタンスのすべてが単一のレイヤ2 ドメインの一部として扱われます。	SVI での複数の L3Out のカプセル化のサポート
マルチポッドおよびリモートリーフの BGP アンダーレイ	BGP は、IPN アンダーレイの OSPF の代替として使用できます。	マルチポッドについて ACI ファブリックのリモートリーフスイッチについて
マルチポッドスパインバックツーバック	場合によっては、IPN デバイスを使用せずに2つのポッドを直接（「バックツーバック」）相互接続できます。	マルチポッドスパインバックツーバックについて
マイクロBFD	マイクロBFD ポートチャネルの各メンバーリンクで個別の BFD セッションを確立し、障害検出を高速化し、トラブルシューティングを容易にします。	マイクロBFD

表 3: Cisco APIC リリース 5.2(1) の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
リモートリーフのバックツーバック接続	ファブリックリンクによってリモートリーフスイッチペアを相互に直接接続し（「バックツーバック」）、ローカルの東西トラフィックを伝送します。	リモートリーフバックツーバック接続について
Site-of-Origin (SoO)	SoO は、ルーティンググループを防ぐためにルートを学習するサイトを一意に識別する BGP 拡張コミュニティ属性です。	GUI を使用した BGP L3Out の設定

機能または変更	説明	参照先
特定のエンドポイントまたはサブネットのデータプレーン IP アドレス学習の無効化	より詳細な制御を行うために、特定のエンドポイントまたはサブネットのデータプレーン IP アドレス学習を無効にできるようになりました。	データプレーン IP アドレスラーニングの概要

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。